
地上の宣言

全無断転載、引用・転用、盗用禁止！

地上の宣言全文

これまで人類は、長い歴史の中で地球の資源で生産を続け、同時に消費を繰り返してきた。

地球の自然は、人類に様々な恵みを与えてくれる。自然の恵みには、人類が住もうために必要な力の他、“育てる、食べる、楽しむ”などを与える力もあり、そして自然が恵みを与えてくれることで、人々は幸福の一つを手に入れている。

しかし、生産と消費ばかりを続け、資源の再生を忘れていた人類の影響によって、地球環境の荒廃、資源の枯渇、動植物の絶滅などの大量破壊を引き起こしてしまった。

地球が人のために存在し、人が地球の資源を使い生産のみを続ければ、人の生活を豊かにすることができ、人類には一見、有益に思えるかもしれない。

だが忘れてはならない。人は地球のために住んでいるのではない。地球と地球に住む動物・植物もまた、人のためにいるのではない。人が住まう場所。それが『世界』だということ。そして、人や植物たちが一緒に住まう場所。それが『地球』であるということ。

人類のために、自然は過剰に使われ、また土地などの開発により、森林の伐採や自然破壊が行われ、自然全体の衰退、破壊へと突き進み、生態系そのものの破壊、そして『地球環境問題』へと結び付けてしまった。

より良きもの、より良い生活を人は求め、自然を、環境を破壊した。自然を壊していくことで大気汚染、水質汚濁などを人が自ら引き起こし、人体への健康被害に繋がっていることも知らずに。

人類は有史以来、自然の恵みや資源を大量に消費し不要なもの、環境を破壊する物を、自然へ排出と廃棄を繰り返してきた。結果、地球規模の環境破壊、そして人体へ悪影響になる公害などの「地球環境問題」を、引き起こしていることを我々は認識しなければならない。

環境問題の認識は人や国によって大きく違ってくる。しかし、一人ひとりが「地球環境問題」に関心を持ち、一人ひとりが自然の回復、保全の行動を起こし、『地球環境保全』に取り組まなければならないことだけは、確かである。

人類は地球環境保全に向けて、

環境問題、地球環境に関心を持ち、
地球の資源を使った大量生産、自然の破壊だけの行為をやめ、
環境負荷の少ない生産、廃棄物などの発生を抑制し、
使えるものは繰り返し使う再使用に、
再使用できないものは原材料として使う再生利用、
再生できないものは熱利用、
最終的に処分しなければならないものは、適正に処分する、
地球の資源の消費を抑制した環境への負担を少なくする“循環型”の生活を目指し維持する。

人類は自然と人との暮らしや関わり方を認識し、人の都合のみで環境を破壊しないことに努力する。また、地球の資源は“有限”であることも認識し、資源を大切に使い、破壊を少なくし、資源の枯渇を食い止め、『資源の再生』を行い、自然の恵み、地球の資源による恩恵を消失させてはならない。

人類は豊かな物に支配される暮らしより自然、植物があり共に住む暮らしを大切にして、自然に親しみ、自然を知り、自然を楽しみ、地球環境保全と環境との調和を目指していく。

自然の恵みには、人類が住まうために必要な力の他、“育てる、食べる、楽しむ”などを与える力もあり、そして自然が恵みを与えてくれることで、人々は幸福の一つを手にかけている。

人類は自然の恵みが与えてくれる“育てる、食べる、楽しむ”に“学ぶ、知る、使う、大切にする”を加え、
地球の資源を大量に使えば自然・環境は失われることを自覚、理解し、
地球の資源を使うことで人は住んでいけることも自覚し、
自然を学び、自然や植物の機能を知り、自然、地球との住み方・暮らし方を学び、
自然を通じて命の大切さを学び、

そして、は自然、地球環境に対して破壊だった人類の行動に“再生・保全”を加え、『地球の一住民』として、自然の再生も大切なことを理解し、再生に向けて行動し、不要な物、廃棄物を資源として再び大切に使い、植物を育て、世代、性別、国、地域を越えて人は「協働」して自然の再生、環境保全へ行動しなければならない。

人は植物のためにいるのではない。
そして地球と地球に住む動物・植物は、人のためにいるのではない。
人が住まう場所。それが『世界』。
そして、人や植物たちが一緒に住まう場所。それが『地球』だから—

地上の宣言は、環境保全の原点となり、人の間違いを改め、人類を教育する基盤となろう。
そして、環境と自然を守る者たちが迷ったときのよりどころとなるだろう。

地上の宣言に賛同し、賛同する人たちが集まってくれることを切に願う。

2009年12月20日

ここに、地上の宣言を発表する。

地球連合樹立者

塩田賢寿